



東島 毅 Tsuyoshi HIGASHIJIMA

1960年 佐賀県生まれ。

佐賀大学教育学部卒業、1986年筑波大学大学院修士課程芸術研究科美術（絵画）専攻修了、1988-90年英国王立美術大学院大学美術学部絵画専攻修士課程在籍。岡山県在住。京都芸術大学大学院教授。

東島作品の特徴は、観者を包み込むような大画面、濃紺や銀色基調とした重層的で深淵な色彩、また落書きのような言葉や記号などに見られる身体性にあります。作家の身ぶりから生まれ、形象となって立ち現れるイメージは書を想起させ、自らがアクチュアルに感じとった光や空気のゆらめき、地を這う水、空と地表など、作家の思考を経たリアリティとして存在します。同時に、絵画、場所、観者との関係性も提示しています。

主な個展に2000年「近代展25 東島毅」国立国際美術館（大阪）、2007年「東島毅展 Selected Works 1988-2006」岡山県立美術館（岡山）、2008年「東島毅展 絵—PICTURE」国際芸術センター青森（青森）、2018年「guest room 003 東島毅—Dual」北九州市立美術館本館（福岡）、2015年「東島毅—キズと光」大原美術館有隣荘（岡山）、主なグループ展に1995年「視ることのアレゴリー 1995 絵画・彫刻の現在 第一期表層：矛盾の包摂」セゾン美術館（東京）、「水戸アニュアル'95 絵画考—器と物差し」水戸芸術館現代美術ギャラリー（茨城）、1996年「現代美術の展望 VOCA 展 '96—新しい平面の作家たち」上野の森美術館（東京）、2001年「先立未来」ルイジペッチ現代美術館（イタリア）、2010年「プライマリーフィールドII：絵画の現在—七つの＜場＞との対話」神奈川県立近代美術館葉山（神奈川）、「野村和弘／東島毅 みることをかんがえる」いわき市立美術館（福島）など。



ARTIST: Tsuyoshi HIGASHIJIMA 東島 毅
TITLE: untitled(Shirogane2)
YAER: 2017
SIZE(IMAGE): 2590 × 1940 mm
MEDIUM: charcoal, acrylic, oil, house paint linen canvas

PRICE: 3,200,000(+TAX) (JPY)



鬼頭 健吾 Kengo KITO

1977 年 愛知県生まれ。

名古屋芸術大学絵画科洋画コース卒業、2003 年京都市立芸術大学大学院美術研究科油画修了、2008-2009 年五島記念文化財団の助成を受け、ニューヨークに滞在、2010 年文化庁新進芸術家海外研修員、ベルリン（ドイツ）、2015 年群馬県を拠点に活動。京都芸術大学大学院教授。

フラフープやパラソル、スカーフなど日常にありふれた既製品を使い、そのカラフルさ、鏡やラメの反射、モーターによる動きなど、回転や循環を取り入れた大規模なインスタレーションや、立体や絵画、写真など多様な表現方法を用いた作品を発表している。それらは、現代の人工的な色彩感覚や輝きと、生命体や宇宙を感じさせるような広がりや混在させています。

主な個展に 2022 年「Lines 鬼頭健吾展」神奈川芸術劇場＜アトリウム＞（神奈川）、2021 年「big rip」rin art association（高崎、群馬）、2021 年「Reconnecting」JAPAN HOUSE Gallery（ロサンゼルス、アメリカ）、2020 年「Full Lightness」京都市京セラ美術館（京都）、2018 年「MULTIPLE STAR I-III」ハラミュージアムアーク現代美術ギャラリー A（群馬）、2018 年「color color color color color color」ガトーフェスタハラダ本社ギャラリー（群馬）、2017 年「YCC Temporary 鬼頭健吾」YCC Temporary（神奈川）、2016 年「KENGO KITO Interstellar」京都芸術大学 Galerie Aube（京都）など。主なグループ展には、森美術館「六本木クロッシング 2007: 未来への脈動」展、国立新美術館「アーティストファイル」展、エルミタージュ美術館「Mono No Aware」展、高松市美術館「ギホウのヒミツ」展、2020 年、京都市京セラ美術館にてリニューアルオープン後、初の展覧会として個展「Full Lightness」が開催された。



ARTIST: Kengo KITO 鬼頭 健吾
 TITLE: active galaxy
 YEAR: 2014
 SIZE(IMAGE): dimension variable
 MEDIUM: post card holder, acrylic board, motor, chain
 MEMO: 1 つの価格：¥700,000 +Tax



宮崎 啓太 Keita MIYAZAKI

1983 年 東京都生まれ。

2007 年 東京芸術大学美術学部工芸科鑄金専攻卒業、2009 年 東京芸術大学大学院修士課程鑄金専攻修了、2013 年 英国王立芸術大学院彫刻科修士課程修了、2015 年 東京芸術大学大学院博士課程美術専攻鑄金研究領域修了。

秩序と幻想という正反対の概念を探究している。作品は伝統的な金属や軽量の紙、そして視覚化されない音等を用いることで、それらが内包する多義性を暗示している。これらの並列化させる手法は具体的な説明を退け、形態を不安定な状態に宙づりにする。近年の作品では、使い古された車のパーツを、紙やフェルトで出来た繭上の物体と組み合わせる、アッサンブラージュの手法を用いている。そこから発せられる音は、色になぞらえられることで、作品は私たちが何を見ているのかを反映、描写するのではなく、代わりにそれを現実の矛盾の中に注ぎ込む。

主な個展に 2022 年「そのことの相対性」MAHO KUBOTA GALLERY (東京)、2019 年「Solo presentation」ZONAMACO (メキシコシティ)、2019 年「あるユートピアの可能性」rin art association (高崎)、2018 年「A Mirage of Ruins」rosenfeld porcini (ロンドン)、2017 年「Solo presentation」Untitled (マイアミ)、2016 年「the Tower」LOKO GALLERY (東京)、2015 年「Post-Apocalypse」大和日英基金 (ロンドン)、2009 年「Layer」B-gallery (東京) など。主なグループ展には、2019 年「Second Hand」Jameel Arts Centre (アラブ首長国連邦)、2018 年「思考する技術展」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA (京都)、2016 年「NEO NIPPONICA」Victoria and Albert Museum (ロンドン) など。



ARTIST: Keita MIYAZAKI 宮崎 啓太
TITLE: 白い閃光
YEAR: 2018
SIZE(IMAGE): 530 × 440 × 210 mm
MEDIUM: car parts, paper

PRICE: SOLD



〒370-0044 群馬県高崎市岩押町 5-24 マクロビル
TEL: 027-387-0195 FAX: 027-387-0196
e: contact@rinartassociation.com